

幼稚園

平成 17 年 度

# 教育研究員研究報告書

幼 稚 園

東京都教職員研修センター

# 目 次

I	研究主題設定の理由	2
II	研究の内容と方法	
1	研究の概要	3
2	研究主題のとらえ方 コミュニケーション能力について	4
3	調査研究（アンケート調査とその結果）	5
4	事例	
	分析・考察の方法	7
事例1	3歳児 5月 「ものとかかわりを楽しんでいた幼児が、教師の言動を きっかけに、友達に関心をもった事例」	8
事例2	4歳児 6月 「ものへの関心から、友達とかかわりが生まれた事例」	10
事例3	4歳児 6月 「したいことを実現して友達とかかわりが生まれた 事例」	12
事例4	5歳児 7月 「友達の言動から自分の思いを調整するようになった事例」	14
事例5	5歳児 9月 「友達と一緒に遊びたい気持ちから、周囲の状況をとらえ、 友達にかかわった事例」	16
5	活動例	18
III	まとめと今後の課題	
1	幼児のコミュニケーションに必要な要素	19
2	事例から分析した幼児のコミュニケーションのパターンと援助	19
	(1) 発信パターン	
	(2) 受信パターン	
3	事例から見たコミュニケーションを支えるものとコミュニケーションを支える 教師の援助	23
4	今後の課題	24

## 研究主題

# 『幼児のコミュニケーション能力を育てる』 ～ものとの出会い、人との出会いを通して～

### I 研究主題設定の理由

幼児期は、心情、意欲、態度、基本的生活習慣など、「生きる力」の基礎が培われる大変重要な時期である。平成17年1月中央教育審議会答申『子どもを取り巻く環境の変化を踏まえた今後の幼児教育の在り方について』によれば、近年、子どもたちの育ちの変化が指摘されている。幼児教育においては、基本的生活習慣の欠如、コミュニケーション能力の不足、自制心や規範意識の不足、運動能力の低下、小学校生活への不適応、学びに対する意欲・関心の低下などが、今日的課題とされている。

このことは、地域社会や家庭など幼児を取り巻く社会の急激な変化が背景にあると考えられる。少子化、核家族化、都市化、情報化等の社会の状況の変化に伴い、幼児は、幼児同士で遊ぶ機会や身近な自然や遊び場の減少などから、直接体験が不足しがちである。そして、保護者が子育てに対する悩みを抱えつつも、周囲に相談できず孤立感や不安を感じていることが多い。幼児同士のトラブルを仲裁する保護者の姿を見ると、その場を収めることはしても、幼児にとって大切な経験としてかかわり方を教えることが少ないと思われる。家庭の教育力もまた低下してきていると考えられる。

このような環境の変化の中で、幼児が初めて家庭から離れて生活する集団の場としての幼稚園においても、人間関係が希薄化し、友達とのコミュニケーションを取りにくい幼児の姿が見られる。自分の思いや気持ちは素直に表すものの、表現の仕方が自己中心的だったり、相手に伝わらない言い方であったりすることがある。また、友達と一緒に遊ぶ中で、相手の気持ちに気付いたり、感じ取ったり、受け入れたりするようになるまでに時間がかかる。そして、困難に出会うとすぐにあきらめたり教師に頼ったりする傾向も見られる。

幼児は、園生活の中でいろいろな環境に出会う。遊具や自然物など「もの」と出会い、興味をもち、かかわろうとする。ものとの出会いを通して、同じ場にいる「人」とのかかわりや思いを伝えたい欲求が生まれる。そして、自分とは違う他者の存在に気付き、様々な感情体験や葛藤を繰り返す。その中で、心を通わせる、気持ちを感じ合う、共感し合う、理解し合うなど、人とかかわる力を身につけるのである。私たちは、幼児期に多様な感情体験を通し、互いに気持ちを伝え合い、分かち合う喜びを十分味わってほしいと願っている。そのことが、豊かな心を育み、生涯にわたって「生きる力」につながると考えるからである。

そこで、本研究では幼児期におけるコミュニケーション能力の育成を目指し、主題を設定した。そして、幼児がものとの出会い、人との出会いを通して、思いを発信・受信する場面に着目し、コミュニケーションに必要な要素、コミュニケーションを支えるものやコミュニケーションを支える教師の援助について明らかにしたいと考え、研究を進めていくことにした。

## Ⅱ 研究の内容と方法

### 1 研究の概要



## 研究の構造図

### 幼児教育の今日的課題

- ・ 基本的な生活習慣の欠如・コミュニケーション能力の不足
- ・ 自制心や規範意識の不足・運動能力の低下・小学校生活への不適応
- ・ 学びに対する意欲、関心の低下

(平成 17 年 1 月中央教育審議会答申「子どもを取り巻く環境の変化を踏まえた今後の幼児教育の在り方について」より)

### ◆研究主題◆

幼児のコミュニケーション能力を育てる  
～ものとの出会い、人との出会いを通して～

### 研究のねらい

幼児のコミュニケーションの実態をとらえ、コミュニケーション能力を育てるための教師の援助について明らかにする。

### ◆研究の仮説◆

幼児は、発達の特性に合った意図的、計画的な保育環境のもと、ものや人との出会いを通して、その思いや考えを人に伝える（発信）体験や相手の思いや考えを受け止める（受信）体験、互いに気持ちを伝え合う体験を積み上げていく。そして、場面に応じて必要な教師の援助を受けることで、コミュニケーション能力が育つ。

### 研究の内容

- ・ 幼児がものや人との出会いを通して、自分の思いや考えを発信し、相手の思いや考えを受信する場面に着目しながら、コミュニケーションに必要な要素、コミュニケーションを支えるものを明らかにする。
- ・ 幼児が思いや考えを伝え合えるようにするための教師の援助を探る。

### 研究の方法

#### 《先行研究・文献研究》

幼児のコミュニケーションについて

#### 《アンケートによる調査研究》

幼児のコミュニケーション能力の実態について

- ・ コミュニケーション能力が低下していると感じる姿、具体的な言動をとらえる。

#### 【分析の視点】

- コミュニケーションパターンの図式化
- コミュニケーションから読みとれる要素（思い、表現の仕方、人への関心など）
- コミュニケーションを支えるもの（遊びやもの、環境、友達、教師）
- 教師の意図

#### 【考察の観点】

- 個々の幼児のコミュニケーションの傾向
- 教師の援助

### 研究のまとめ

- ・ コミュニケーションに必要な要素やコミュニケーションを支えるものについて
- ・ 幼児が思いや考えを伝え合い、思いを分かち合えるようにするための教師の援助について

## 2 研究主題のとらえ方

### コミュニケーション能力について

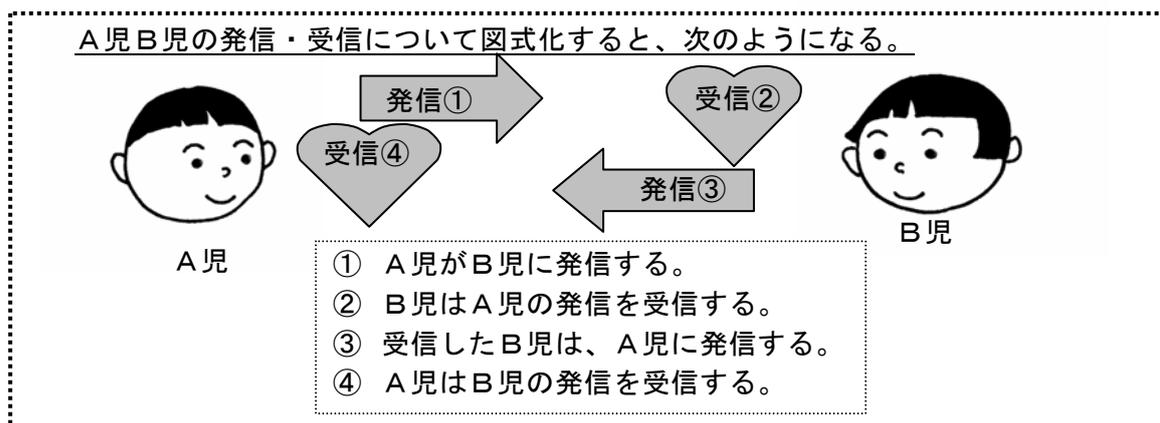
#### ■ コミュニケーションとは・・・？ ■ \_\_\_\_\_

コミュニケーションは、人と人との思いや感情をやりとりする行為である。それは、情報の伝達や、感情の伝え合い、気持ちの分かち合いなど、人と人がかかわる上で重要な役割をもっている。そして、コミュニケーションには、自分の思いをもつことが大切であり、その思いを伝える手段として、言葉や身体表現などがある。

また、コミュニケーションは、心身の発達や成長とともに、対人関係や社会生活能力の伸展にも関係している。そしてこれらは、乳幼児期からの家族などとの関係性を基盤としながら、友達関係や集団生活を通して広がっていくと言える。ゆえに、幼稚園におけるコミュニケーション能力の育成は、幼児の成長過程において、欠かせないものであると言える。

#### ■ 幼児期に育てたいコミュニケーション能力とは？ ■ \_\_\_\_\_

本研究では、コミュニケーションを、「発信」「受信」の両面からとらえ、幼児に必要なコミュニケーション能力を、次のように考えた。



- ・ 発信…自分の思いや考えを様々な方法（言葉・表情・動作）で相手に分かるように伝えること
- ・ 受信…相手が発信した思いを聞いて、相手の気持ちや考えが分かること
- ・ 対話…上の図の①から④が成立しているとき、対話と言える

#### **なぜコミュニケーション能力を育てるのか**

コミュニケーションは、人とのかわりに不可欠だけでなく、幼児の様々な育ちにつながるととらえ、次のようにコミュニケーション能力の発達の意義を考えた。

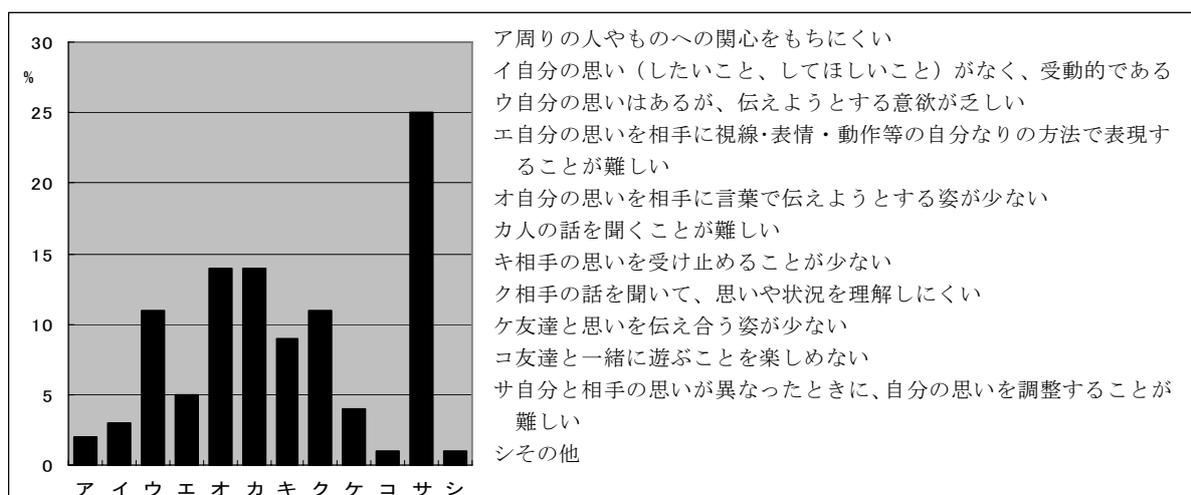
- ① 思考力・判断力・理解力・課題解決能力が向上する。
- ② 表現力が豊かになる。
- ③ 他者と協調し、他者を思いやる気持ちが育つ。
- ④ 他者（友達）とのかわりが豊かになる。
- ⑤ NO・HELPなど自分の気持ちや思いをはっきりと表現でき、心の安定を保てる。
- ⑥ 豊富な知識や情報を取得することができ、知的発達を促す。
- ⑦ スムーズな園生活・社会生活を送ることができる。
- ⑧ 学級づくりの基礎となる。(参考：福岡教育大学教授 横山正幸氏講演より)

### 3 調査研究（アンケート調査とその結果）

研究を進めるに当たり、幼稚園の教師が幼児のコミュニケーション能力について感じていることや、幼児の実態をとらえるために、東京都公立幼稚園の中から98園、担任教諭313名を対象にアンケートを行った。内容は、生活や遊びの中で幼児のコミュニケーション能力の低下を感じる姿と、その具体的な言動について設問した。そして、私たちが着目する幼児の“発信”“受信”の姿について、どのような課題が見られるか、調査研究を行った。（回収率は99%）

#### <アンケートの設問と結果>

問1 最近の幼児の生活や遊びの中で、あなたは幼児のどのような姿からコミュニケーション能力が低下していると感じますか。2つ選んで、○印をつけてください。



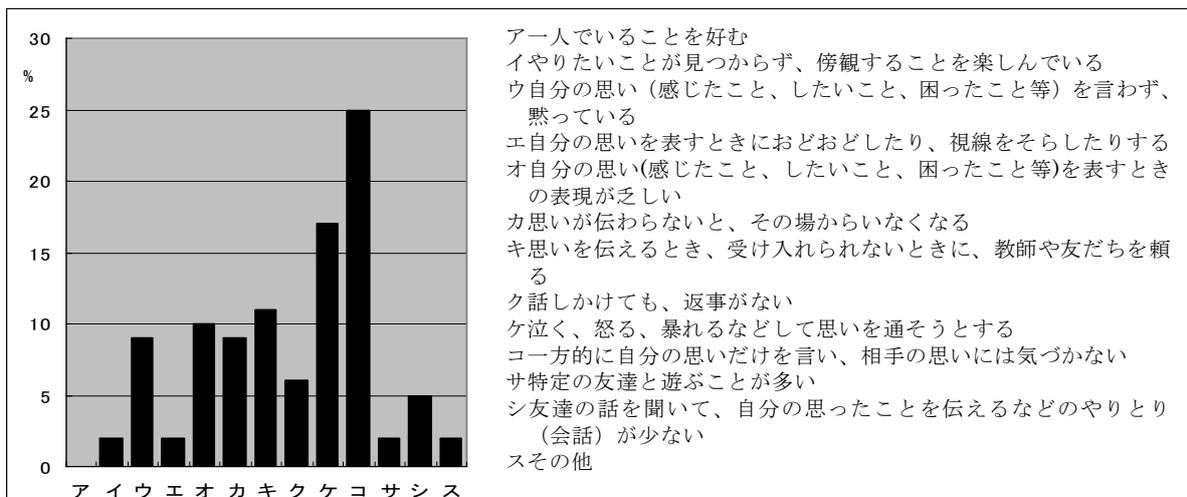
#### 結果

- ・ 全体の25%の教師がサの「自分と相手の思いが異なったときに、自分の思いを調整することが難しい」発信面と受信面のどちらにもかかわる姿をあげている。
- ・ オの「自分の思いを相手に言葉で伝えようとする姿が少ない」を筆頭に、ウ、エ、イの発信面にかかわる姿を全体の約33%の教師があげている。
- ・ カの「人の話を聞くことが難しい」を筆頭にク、キの受信面にかかわる姿を約34%の教師があげている。
- ・ アの「周りの人やものへの関心をもちにくい」を2%、コの「友達と一緒に遊ぶことを楽しめない」を1%と、気になる姿としてあげている教師が少ない。

#### 考察

- 最近の幼児は人やものへの関心をもっているが、自分の思いを発信し、受信し合いながら友達とかかわり、互いに思いを伝え合ったり、互いの思いの違いに気付き、分かり合ったりする機会が少ないため、自分の思いを調整する機会も経験できないのではないかと考えられる。
- 幼児は自分の思いはあるが、思いを発信しようとする意欲があまりなかったり、言葉によって伝えられなかったりしている。また、人の話を聞くことが難しいことや、思いを受け止める気持ちをもちにくい姿からも、友達とのかかわりの中で、教師が幼児のコミュニケーション能力の発信と受信の両面について援助する必要があることが考えられる。

問2 具体的にどのような言動からそのように思いますか。2つ選んで○印をつけてください。



### 結果

- ・ 全体の25%の教師がコの「一方的に自分の思いだけを言い、相手の思いには気付かない」発信面と受信面のどちらにもかかわる言動をあげている。
- ・ ケの「泣く、怒る、暴れるなどして思いを通そうとする」のほかウやオなど発信面での言動を、36%の教師があげている。
- ・ キの「思いを伝えるとき、受け入れられないときに、教師や友達を頼る」やカが発信する際の言動を20%の教師があげている。
- ・ アの「一人であることを好む」が0%、イの「やりたいことが見つからず、傍観することを楽しむ」、エの「自分の思いを表すときにおどおどしたり、視線をそらしたりする」、サの「特定の友達と遊ぶことが多い」がそれぞれ2%となっており、これらの言動を気になる言動としてあげている教師は少ない。

### 考察

- 最近の幼児は自分のやりたい遊びを楽しんだり、いろいろな友達とかかわったりする中で自分の思いを発信しているが、泣く、怒る、暴れるなどの動作や相手には伝わりにくい表情で表したり、一方的に自分の思いを通そうとしていたりしている。また、伝わらないときには教師や友達に依存して自分で伝えようとしないうことから、友達の思いに気付くことや受け入れる気持ちをもつことが難しいことが考えられる。

### 自由記述について（抜粋）

教師が、幼児のコミュニケーション能力について感じている具体的な意見を以下にまとめた。

- 「自分の思いや考えを、どのように伝えたらいいのか分からずにいる」などの幼児の発信面での気になる姿や、「相手の気持ちを受け入れようとするのが難しいように感じている」などの幼児の受信面での気になる姿のどちらも、コミュニケーション能力の課題として記述している。
- 「保護者が幼児の思いを先取りして、幼児が伝える必要をなくしているため、自分の思いや考えの伝え方が分からない」「保護者が幼児の気持ちを受け止めたり、丁寧にかかわったりすることが少ない」などの保護者の幼児へのかかわり方や、「入園前に幼児同士がかかわる経験が少ない」などの幼児同士で遊ぶ経験の不足を、コミュニケーション能力が低下している背景として記述している教師が多い。
- 「幼児が思いを伝え合う嬉しさを教師が共感したり、認めたりしていくことが大事だと思う」など、課題を十分に受け止め、幼児にコミュニケーション能力が育つよう指導していると記述している教師が多い。

#### 4 事例

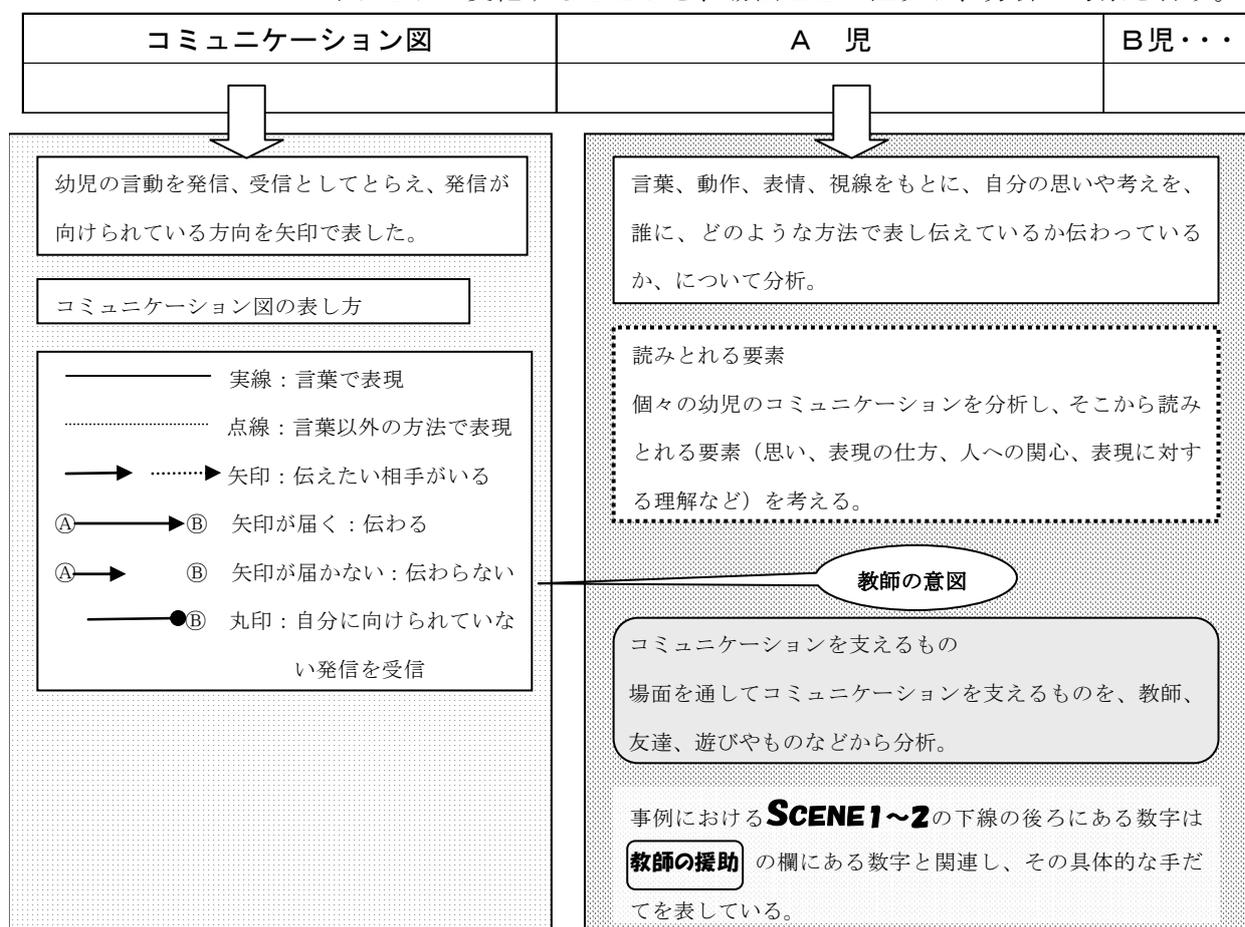
研究主題にせまるため、各研究員の日常の保育の中から幼児が友達とかかわっている場面の保育実践記録や、研究保育の観察対象児を中心とした観察記録を合わせた22事例を下記のような方法で分析・考察し、教師の援助について探り、仮説の検証を行った。

##### 分析・考察の方法

各事例の素記録を分析したのち、幼児の言動から、幼児のコミュニケーションの発信、受信の傾向が顕著に表れている部分を個々の幼児について分析をし、抜粋し、まとめたものを、P8からP15に下記のような形式で表記する。

<b>事例</b>	<b>年齢</b>	<b>時期</b>	<b>幼児のコミュニケーションに視点をあてた事例のタイトル</b>
事例における対象幼児のプロフィール及び教師の指導内容について記述する。			

**SCENE** → 一つの事例の中で、幼児同士や幼児と教師の言葉、動作、表情、ものなどのやりとりが変化するところを、場面ごとに区切り、分析・考察を行う。



##### 考察

**各幼児のコミュニケーションの傾向** → 個々の幼児のコミュニケーションの傾向について、対象幼児別の分析の欄にある発信・受信の読みとれる要素からとらえる。

**教師の援助**

幼児のコミュニケーション能力を育てるために必要な教師の援助について（教師の意図的な援助に番号をふり下線を引く）

## 事例1 3歳児 5月 ものとのかかわりを楽しんでいた幼児が、教師の言動をきっかけに、友達に関心をもった事例

入園して一か月経ったこの時期は、幼児が幼稚園で安心して過ごせるようになる時期である。教師は、幼児が好きなものやしたいことに自分からかかわって遊び、遊びを楽しむ中で自分の思いを自分なりの方法で表せるよう、幼児と一緒に遊びながら援助した。幼児が教師とやりとりしながら遊びの中で動作や言葉で表したことは、他の幼児に伝わり、理解された。さらに、このことは友達に関心をもつことにつながった。

A児は、砂場の横のテーブルに砂場から砂を運び、その表面を手でぺたぺたと叩いている。A児は数日前から同じ場所で同じ動きを繰り返している。砂場では、B児とC児がそれぞれに砂遊びをしている。

### SCENE 1 「先生にケーキ作ってあげる」

A児は、砂場の近くにいた教師の目の前に来て、教師の顔を見ながら「先生にケーキ作ってあげる」と言う。教師が「ありがとう。Happyバースデーかな?」と言うと、A児は「うん」と答え、黙々とケーキを作り続ける。

囲み枠の読み方：

読みとれる要素

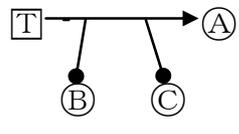
教師の意図

コミュニケーションを支えるもの

コミュニケーション図	A 児
<p><b>発信</b></p> <p>「先生にケーキ作ってあげる」</p> <p>(A) ↔ (T)</p> <p><b>受信して発信</b></p> <p>「ありがとう、Happyバースデーかな?」</p> <p><b>受信して発信</b></p> <p>(A) → (T)</p> <p>「うん」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ A児は教師にケーキを作ってあげたいという思いをもち、それを言葉で伝える。②</li> </ul> <p>(教師の意図)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ A児の思いを受け止めた。②</li> <li>・ 誕生日のケーキをイメージさせることで、楽しい雰囲気を作りたい。③</li> </ul> <p>(読みとれる要素)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 思いを動作や言葉で表現する。②</li> <li>・ 教師に関心がある。</li> <li>・ 話を聞いて理解する。</li> </ul> <p>・ 教師の話聞いて答えている。</p> <p>(コミュニケーションを支えるもの)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分のイメージを形にして表現できる砂や遊具。①</li> <li>・ 作ったものを見立てていること。</li> <li>・ 教師との信頼関係。</li> <li>・ 教師と一緒に遊んでいること。③</li> </ul>

### SCENE 2 「先生、フーして」

教師はA児がケーキを作っているそばに座り、歌を歌いながら、A児がケーキを作る様子を見ている。③ そこへB児が来て、A児と同じようにぺたぺたと砂を叩き始める。さらにC児もA児、教師、B児のいるテーブルに来ると、カップに砂を詰め始める。B児はテーブルの上で固めた砂にシャベルを差して「先生フーして」とそばにいる教師に話す。② それに続いてC児は、カップに詰めた砂に木の枝を差し、「ろうそく」と言って教師に見せる。②

コミュニケーション図	B 児	C 児
<p><b>発信</b></p> <p>「♪ハッピーバースデー トゥーユー…」</p>  <p><b>キャッチして発信</b></p> <p>B → T 「先生、フーして」</p> <p>C → T 「ろうそく」</p> <p><b>受信して発信</b></p> <p>T → B, C</p> <p>「いろいろなろうそくつけたね、ハッピーバースデーのケーキだね」 「♪ハッピーバースデートゥーユー…」 「おめでとう」</p>	<p>誕生日をイメージできる歌を歌うことで楽しい雰囲気を作りたい。③</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教師とA児の言動から、<u>A児がバースデーケーキを作っていることが分かり、自分もケーキを作りたいと思ってA児をまねて作る。③</u></li> <li>バースデーケーキからろうそくのあるケーキをイメージし、近くにあるものを使って表現する。①</li> <li>教師にケーキのろうそくを消してほしい気持ちを言葉で伝える。②</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>教師とA児に関心がある。③</li> <li>A児がしていることが分かる。③</li> <li>思いを動作や言葉で表現する。</li> </ul> </div> <p>・教師や友達の言動から誕生日だと分かり、バースデーケーキを作りたいと思い、自分なりの方法でろうそくのついたケーキを作る。①</p> <p>・教師にケーキのろうそくを見せたい気持ちを言葉で伝える。②</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>教師や友達に関心がある。③</li> <li>友達がしていることが分かる。③</li> <li>思いを動作や言葉で表現する。</li> </ul> </div> <p>・B児とC児、それぞれの思いを受け止めたい。②</p> <p>・誕生日や誕生日会をイメージできる歌を歌うことで楽しい雰囲気を作りたい。③</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>教師との信頼関係。</li> <li>教師と一緒に遊んでいること。③</li> <li>教師や友達の言動を見聞きすることができる遊びの場。③</li> <li>幼児が具体的なイメージをもつことができる言葉や歌。③</li> <li>自分のイメージを形にして表現できる砂、遊具、自然物。①</li> </ul> </div>	<p>・教師や友達の言動から誕生日だと分かり、バースデーケーキを作りたいと思い、自分なりの方法でろうそくのついたケーキを作る。①</p> <p>・教師にケーキのろうそくを見せたい気持ちを言葉で伝える。②</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>教師や友達に関心がある。③</li> <li>友達がしていることが分かる。③</li> <li>思いを動作や言葉で表現する。</li> </ul> </div>

**考察**

**各幼児のコミュニケーションの傾向**

 **A児**

- 自分の思いをもち、素直に動きで表現したり、教師に言葉で伝えたりする。
- 教師に関心をもち、教師の話を聞いたり教師とのやりとりを喜んだりする。

 **B児**

- 教師とA児に関心をもち見聞きしたことを理解する。
- 自分の思いをもちものにかかわりながら自分なりに表現したり動作や言葉で教師に伝えたりする。

 **C児**

- 教師や近くにいる友達に関心をもち、見聞きしたことを理解する。
- 自分の思いをもち、ものにかかわりながら自分なりに表現したり動作や言葉で教師に伝えたりする。

**教師の援助**

- A児B児C児は、それぞれに自分の好きなものや興味をもったものにかかわって遊びながら、自分なりの思いをもち素直に言動に表している。教師は発達段階に応じた遊具や素材を選択し一緒に遊ぶ中でその使い方を知らせ、幼児がものとかかわりながら遊ぶ楽しさを味わえるようにする必要がある。①
- A児、B児、C児は教師に自分の思いを動作や言葉で伝えている。教師は幼児の言動を受容し、幼児がじっくり遊びに取り組みながら、安心して自分の思いを表せるようにすることが大切である。②
- それぞれに遊んでいたA児、B児、C児は教師の言動をきっかけに友達と同じ場で遊び始めた。教師は幼児と一緒に遊びながら楽しい雰囲気を作ったり、周りの幼児の言動に気付かせたりし、友達の言動を見聞きすることや同じ動きをすること、友達と一緒にいることを楽しめるようにする必要がある。③

## 事例2 4歳児 6月 ものへの関心から、友達とのかかわりが生まれた事例

教師は、D児を友達に自分の思いを伝える姿が少ないととらえ、友達とかかわりを持ち、気持ちを伝えながら思いを実現する楽しさを感じてほしいと考えた。教師は具体的な表現方法を知らせ、気持ちの橋渡しをしていったところ、友達とのかかわりが生まれ、D児は思いを実現することができた。

昼食後、何人かの幼児が自転車に乗って遊ぶ。D児は補助輪付自転車に乗りたいが、全て他の幼児が使用しているため、補助輪付自転車には乗れない。教師は、D児に自転車に乗るためには、自転車の順番を待つことを伝える。D児は、E児には、自分から声をかけ、かかわりをもとうとしている。F児とは、普段から思いの違いからトラブルになることが多い。

### SCENE 1 「自転車にのりたいなあ〜」

D児はE児が乗っている赤い自転車に乗ろうと思い、E児を見ながら「こっち、ヤッホー」と言うが、返事がない。教師がD児に、「Eちゃんヤッホー、戻ってきてねって言うんだよ」と声をかけると、E児は教師の言葉に反応し、「今、行って来るね」と、D児に言う。

D児が待っていると、E児が「オッケー、お待たせ」と自転車をD児に渡す。D児はE児に「二人のにする?」と言うが、E児は、教師をちらっと見ながら「二人乗りはだめなんじゃないの?」と言う。教師はE児に「二人乗りじゃなくて、二人の自転車にしたいみたいだよ」と話し、D児に「行ってらっしゃい」と言う。D児は赤い自転車に乗る。

囲み枠の読み方：

読みとれる要素

教師の意図

コミュニケーションを支えるもの

コミュニケーション図	D 児	E 児
<p>発信 ① → 「こっち ヤッホー」</p> <p>「Eちゃんヤッホー、戻ってきてねって言うんだよ」</p> <p>②</p> <p>キャッチして発信 「今行って来るね」</p> <p>「二人のにする?」</p> <p>発信 → 「二人乗りはだめなんじゃないの?」</p> <p>受信して発信</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・E児に自分が待っていることを言葉で表すが、相手には伝わっていない。①</li> <li>・ものに関心がある。③</li> <li>・相手に分かる伝え方ではない。①</li> </ul> <p>自分の思っていることを、E児に分かるように伝えてほしい。①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・好きな友達が自転車を貸してくれたことが嬉しい。一緒に遊びたい気持ちを言葉にするが、E児が聞き違えたため、E児に思いが伝わっていない。</li> <li>・友達と遊びたい思いがある。</li> <li>・伝えたい相手がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・D児の言葉が、聞こえていない。または、自分に向けられた言葉とは気付いていない。</li> <li>・教師がD児にかけた言葉を聞いて、D児の思いが分かり、D児に言葉をかける。④</li> <li>・教師の言葉を聞き、話の内容を理解する。④</li> <li>・相手に自分の思いを言葉で表現する。</li> <li>・「二人のに」を「二人乗り」と聞き違えるが、D児に思ったことを伝える。</li> <li>・人の話を聞き、受け止めようとする。</li> <li>・自分の思いを言葉で表現する。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・D児の自転車に乗りたい思い。③</li> <li>・教師の言葉を受信したE児の言動。④</li> <li>・D児への教師の援助。①</li> </ul>	

### SCENE 2

### 「オレンジの自転車にのりたいなあ〜」

D児は、赤い自転車に乗ったが、車高が高すぎてうまく乗れず自転車を降りる。そこで、オレンジの自転車に乗りたと思うが、オレンジの自転車はF児が乗っている。

D児は、オレンジの自転車に乗っているF児の近くに行き、「誰か自転車乗せてくれるかな」

とつぶやくが、F児は聞いていない。教師が、F児に「Dくんがお話ししたの聞こえたかな」と言うと、F児はD児に「Dくん何て言ったの?」と言う。D児が「補助輪のある?」とF児に言うと、F児は「これは、そこに並んでないと」と答える。D児が並んで待っていると、F児が戻ってきて「はい」とD児にオレンジの自転車を渡す。D児は「これなら大丈夫だ」と言って、オレンジの自転車を走らせる。

コミュニケーション図	D 児	F 児
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・F児は、自分とトラブルになることが多い友達なので、声をかけづらい。F児に向けてつぶやいているが、「誰か」という言葉から直接F児には伝わらない。①</li> <li>・自分の思いがある。②</li> <li>・思いを聞いてほしい相手がいるが、相手との関係性から伝えられない。①</li> </ul> <p>・D児には、自分の思いをF児に分かるように表現してほしい。①</p> <p>・F児に、D児の話に関心をもってほしい。①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉の表現が分かりにくい。①</li> <li>・やっと思い通りの自転車で乗り、嬉しい。②③</li> <li>・自分の思いを表現する。②③</li> </ul> <p>・教師が思いの橋渡しをしたこと。①</p> <p>・D児の自転車で乗りたい思い。③</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・D児の言っていることが、聞こえているが反応しない。</li> <li>・D児への関心が低い。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自転車で乗っていたいが、教師に言葉をかけられたので、D児に聞いてみようとする。</li> <li>・教師の言葉を聞く。</li> <li>・言葉で表現する。</li> <li>・友達の話聞く。</li> </ul>

### 考察

### 各幼児のコミュニケーションの傾向



D児

- ・自分の思いはあるが、伝える相手ははっきりしていなかったり、伝わるような言い方がなかったりするために、思いが相手に伝わらない。
- ・教師が話している言葉を聞いて受け止めている。



E児

- ・人への関心が高く、周りの人の話を聞いている。教師がD児にかけた言葉を聞き、D児の思いをくみ取るなど、話を理解し、受け止めている。
- ・周りの状況を見たり聞いたりして、自分の思いを伝えている。



F児

- ・自分が関心のもちにくい友達の声は受け止めにくい。
- ・教師の言葉は受け止めて理解し、答えている。

### 教師の援助

- ・4歳児は、思いを言葉で表現できなかつたり、言葉の表現が分かりにくかつたりするため、相手に思いが伝わらないことも多い。教師は、幼児の様々な表現から思いを受け止め、それを具体的な言葉に表したり、相手に伝わるように互いの思いを聞き、代弁したりすることが必要である。①
- ・思いを分かってくれる教師には、自分の思いを安心して表現する姿が見られる。教師は、その思いを受け止めやりとりをしながら、思いを表現する楽しさを感じさせていくことが大切である。②
- ・ものへの興味や「～したい」という思いが友達とのかかわりにつながり、コミュニケーションが生まれている。教師は幼児が興味をもちやすい教材や遊具を用意したり、友達とのかかわりが生まれるような環境設定の工夫をしたりしながら、思いを実現する楽しさを感じさせていくことが大切である。③
- ・教師と他の幼児のやりとりを、同じ場にいる幼児が聞いて受け止めていること（キャッチすること）も多いので、教師はコミュニケーションのモデルとなるように幼児とかわることが大切である。④

### 事例3 4歳児 6月 したいことを実現して友達とのかかわりが生まれた事例

教師はG児を、したい遊びをなかなか見付けられないでいるととらえ、興味をもったことに自分から取り組み、遊ぶ楽しさを味わってほしいと考えていた。また、教師に対しても自分の思いを視線や動きで表現することが多いので、したいことを楽しみ、安心して思いを出せるように援助したところ、自分から友達に働きかけることができた。

それぞれが違う遊びをしていたG児、H児他数名の幼児が、園庭でテントウムシを見付け、「テントウムシを捕まえない」と言い、教師と一緒に野草園に行く。

#### SCENE 1 テントウムシを捕まえないけれど…

G児は飼育ケースを持ったまま教師の顔を見て、野草園に入ろうとしないので、教師が「入っていいんだよ」と野草園に入って見せる①とG児も入る。H児はテントウムシを自分で見付けたり捕まえたりできず、「いなーい」「とってー」と教師に言う。教師はテントウムシがいる場所を「見付けた」と言って知らせたり、H児の手にテントウムシをのせたりする。②その様子を見て、G児もテントウムシを「ほしい」「とれない」と教師に言い、教師は「中にあるよ」「葉っぱごと捕っていいよ」と言い、捕り方を知らせる。③G児はテントウムシを葉ごと捕って飼育ケースに入れ、中をのぞき込む。教師は「やったー、G君、捕まえた」と声をかける。

囲み枠の読み方：

読みとれる要素

教師の意図

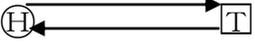
コミュニケーションを支えるもの

コミュニケーション図	G 児	H 児
<p>発信 (教師を見る)</p> <p>G ← T</p> <p>「入っていいんだよ」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テントウムシを捕まえないがどうしたらいいかわからず、教師を見る。</li> <li>・思いを視線で表す。</li> <li>・教師に伝えたい思いがある。①</li> <li>・教師の言動を受け止める。</li> </ul>	
<p>発信 「いなーい」「とってー」</p> <p>H ← T</p> <p>「見付けた」(手にのせる)</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・テントウムシを捕まえないけれど自分では見付けられない、捕れないことを教師に言葉で伝える。</li> <li>・思いを言葉で表現する。</li> <li>・教師に伝えたい思いがある。①</li> <li>・教師の言動を受け止める。</li> </ul>
<p>発信 「ほしい」「とれない」</p> <p>G ← T</p> <p>「中にあるよ」</p> <p>「葉っぱごと捕っていいよ」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分もテントウムシを捕まえてく言葉で教師に伝える。</li> <li>・思いを言葉で表現する。</li> <li>・教師に伝えたい思いがある。①</li> <li>・教師の言動を受け止める。</li> </ul>	
<p>G ← T</p> <p>「やったー、G君、捕まえた」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師との信頼関係。</li> <li>・G児がH児と教師とのやりとりを見ていたこと。③</li> </ul>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・G児が自分で捕まえたことを認めたい。②</li> </ul>

#### SCENE 2 G児「いるよ」、H児「どこ？」

G児は、数匹のテントウムシを捕まえて飼育ケースに入れていた。H児は、テントウムシを強くつまんでしまい羽が元に戻らなくなり、教師に「こんなになっちゃったー」と言う。教師

は「小さいから弱いんだよ、こうすると大丈夫だよ」とテントウムシを指にはわせて見せる。  
 ②他の幼児がそれをまねすると、H児は「あー、ぼくもー、先生、いないよー」と教師に言う。それを聞いたG児が「いるよ」と言うと、H児は「どこ？」と聞き、G児はテントウムシがいる葉を指し示して教える。

コミュニケーション図	G 児	H 児
<p><b>発信</b></p> <p>「こんなになっちゃったー」</p>  <p>「こうすると大丈夫 (指にはわせて見せる)」</p> <p><b>発信</b></p> <p>「いるよ」 (テントウムシを指し示す)</p>  <p><b>受信して発信</b>「どこ？」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分で捕まえることができた満足感と自信があり、H児にテントウムシがいることを伝える。</li> <li>思いを言葉で表現する。</li> <li>思いを伝えたい相手がいる。</li> <li>H児の言動を受け止める。</li> <li>思いを動作で表す。</li> </ul> <p>・同じものに興味をもった友達。          ・G児がH児と教師とのやりとりを見ていたこと。③</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>羽が戻らなくなってしまい残念な思い、自分も指にはわせてみたい思いを教師に言葉で伝える。</li> <li>思いを言葉で表現する。</li> <li>教師に伝えたい思いがある。①</li> <li>教師、他の幼児の言動を受け止める。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>教えてほしくてG児に聞く。</li> <li>G児の言葉を受け止める。</li> <li>思いを言葉で表現する。</li> <li>思いを伝えたい相手がいる。</li> </ul>

## 考 察

### 各幼児のコミュニケーションの傾向



G児

- 自分の思いを表すときに、言葉よりも、顔を見る、指し示すなどの視線や動きで表すことが多く、伝えたい相手に伝わりにくい。
- 思いを教師に伝えることが多い。
- 教師や周りの幼児の言動には気付き、理解している。



H児

- 自分のしたいことや思いを教師に対して言葉で表現することができる。
- 教師や周りの幼児の言動に気付き、それを受け止めている。

### 教師の援助

- G児、H児は自分の思いを教師に伝えることが多く、言葉よりも表情や動きで表すことが多い。教師は、幼児の思いを汲み取り、しっかりと受け止めていくことで、一人一人が安心して自分の思いや考えを表し、友達とかかわっていくことができるようにすることが大切である。①
- G児がH児に言葉で思いを伝えたのは、テントウムシへの興味や捕まえたいという思いがあったこと、そしてその思いを実現できたからだと思われる。また、同じ場にいる幼児たちに、テントウムシという同じものへの興味があったことで、周りの幼児の言動に目を向けやすかったと思われる。幼児が興味・関心をもち、互いのやりとりのきっかけになるような環境を整えることが大切である。また、自分のしたいことへの思いがあることを大切にしたり、したいことを自分の力で実現していくことができるように支えていく援助をしたりしていくことが大切である。②
- 自分の思いに誰かがこたえてくれるというやりとりの楽しさを感じることで、次のやりとりへとつながっていくと思われる。まず、教師が受け止めて返していくことで、友達とのやりとりの楽しさを十分に味わえるようにすることが大切である。③

## 事例4 5歳児 7月 友達の言動から自分の思いを調整するようになった事例

教師は、幼児同士が自分の思いを言葉で伝え合い、互いの思いを分かり合えるようになってほしいと考えた。伝えたい思いを相手が受け止めてくれない時には、あきらめずに言葉で理由を聞くように援助し、幼児同士で解決できるように見守った。M児が仲間の友達の言動から相手の思いを受け止め、言葉で伝えたことで、互いに思いが分かり、I児が自分の思いを調整した。

I児J児の二人は、テラスに敷いた青いシートを海に見立て、ビニールで作った水着を身に付け、音楽に合わせて泳ぎながら踊っている。ガラス越しに、ホールでK児L児M児の三人が大型パネルで場を作り遊んでいたが、しばらくして、K児L児が、自分たちのホールの場とテラスの海の場とがつながるようにパネルを斜めに置いて、行き来しながら遊び始める。I児J児の二人は、K児L児M児の三人に自分たちの場を使わないで欲しいことを伝えるが、受け入れてもらえないので、教師に思いを伝える。教師は、「『どうして入ってくるのか?』という理由を聞いてみたらどうか。」と伝える。① I児J児は、再び、K児L児M児の三人の所に行く。

### SCENE 1 「つなげたっていいじゃない」

I児J児の二人は、K児L児M児の側に行き「どうして海の所につなげちゃったの?」と小さな声で聞く。K児は少し強い口調で「つなげたっていいじゃない」とI児J児に言い、L児は黙って付けたパネルをはずそうとする。M児は何も答えない。すると、K児が「Lちゃんはずさないで」と言い、L児の持っていたパネルを再びつなげようとする、L児はパネルから手を離し、M児はその様子をじっと見ている。

囲み枠の読み方：

読みとれる要素

教師の意図

コミュニケーションを支えるもの

コミュニケーション図	I 児・J 児	K 児	L 児	M 児
<p>「どうしてつなげるの?」</p> <p>受信して発信 「つなげたっていいじゃない」</p> <p>パネルをはずす 見ている</p> <p>発信 「Lちゃん、はずさないで」と、パネルをつける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ I児J児は、K児L児M児に思いを<u>受け入れてもらいたいために、パネルを置いた理由を聞く。</u>①</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ I児J児の話聞くが、受け入れず言葉で拒否する。自分の思いを通したいので、L児の動きを止める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ I児J児の思いが分かり、受け入れたことを動作で表現している。仲間のK児に自分の動きを止められると、それも受け入れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ I児J児の話聞いていたが、何も答えない。一緒に遊んでいた仲間のK児L児とのやりとりに関心をもって見ている。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 伝えたい思いがある。</li> <li>・ <u>思いを言葉で表現する。</u>①</li> <li>・ <u>伝え方が分かる。</u>①</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 話を聞く。</li> <li>・ 思いを言葉で表現する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 話を聞く。</li> <li>・ 話の内容を理解する。</li> <li>・ 思いを動きで表現する。</li> <li>・ 思いを受け入れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 話を聞く。</li> <li>・ 周りの状況に関心はもっているが、言葉や動作では表現しない。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ I児J児が、教師の援助を受け、あきらめずに思いを伝えようとしたこと。①</li> <li>・ K児が自分の思いを言葉で伝えていること。</li> <li>・ L児がI児J児の思いを受け止め、自分の思いを動作で表現したこと。</li> </ul>			

### SCENE 2 「両方入れることにする?」

I児J児は、再びK児の方を向き「どうしてくっつけるの?」と強い口調で言うが、K児は不満そうな表情をして何も答えない。すると、M児が「だって泳ぎたかったから。」と言う。少しして、I児が「じゃあ両方入れることにする?」とM児を見て言うと、M児L児はうなずく。

コミュニケーション図	I 児・J 児	K 児	L 児	M 児
<p>「どうしてくっつけるの」</p> <p>「泳ぎたかったから」</p> <p>「両方入れることにする？」</p> <p>うなづく</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・K児に対する不満な思いが強い口調になる。</li> <li>・再び受け止めてもらおうと理由を聞く。</li> <li>・I児は、M児の思いを受け止めて新たな提案をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・I児の思いを聞いているが、受け入れたくない気持ちを表情で表す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・I児の提案を動作で受け入れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>SCENE 1</b>のK児L児の姿やI児J児の強い発信から、思いを受け止め、自分の思いを言葉で伝える。</li> <li>・I児の提案を動きで受け入れる。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伝えたい思いがある。</li> <li>・言葉（感情のこもった）で表現する。</li> <li>・相手の思いが分かり、自分の思いを調整する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話を聞いているが、自分の思いと調整できない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話を聞く。</li> <li>・理解する。</li> <li>・I児の思いを動作で受け入れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話を聞く。・理解する。</li> <li>・I児J児の思いを受け止める。</li> <li>・I児の思いを動作で受け入れる。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・I児J児の感情のこもった言葉（「つなげたくない」という強い思い）の発信。</li> <li>・M児が、<b>SCENE 1</b>の状況（仲間のL児がI児J児の思いを受け入れてパネルをはずそうとし、K児がL児の動きを止めたこと）を見ていたこと。</li> <li>・M児が、I児J児からの強い思いを受け止めて自分の思いを言葉で伝えたことは、I児が自分の思いを調整して、新たな考えを伝えることにつながった。</li> </ul>			

## 考察

### 各幼児のコミュニケーションの傾向

I 児



- ・伝えたい思いをあきらめずに言葉で発信することができる。
- ・相手が思いを聞いて受け止めてくれると、新たな発信をしていく姿も見られ、相手と対話をしていく姿も見られる。



J 児

- ・伝えたい思いをあきらめずに言葉で発信することができる。



K 児

- ・自分の思いを言葉や動作で表現し、発信することができる。
- ・相手の思いを聞いているが、自分の思いと調整することが難しい。



M 児



L 児

- ・相手の思いを、聞いて理解し、受け入れることができる。
- ・自分の思いを動作で表現することができるが、言葉で発信していないので、相手に受け入れられにくい。

- ・周囲の友達の様子を見ていて、自分の思いはあるが、積極的に表現せず、相手に伝えるまでに時間がかかる。
- ・自分の発した言葉を相手に受け止めてもらう喜びを感じている。

### 教師の援助

- ・I児J児は、K児L児M児に自分たちの思いを受け止めて、言葉や動作で発信してもらいたいと考えている。伝えたい思いを相手が受け止めてくれない時には、思いが伝わる方法を教師と一緒に考えたり、具体的な伝え方を知らせたりして、最後まであきらめずに伝えられるように支えていく。①5歳児は、言葉を使って相手に了承を得たり、確かめ合ったりして遊びを進めていくようになるので、教師は、幼児が言葉で思いを伝え合えるよう橋渡ししたり、相手の思いを理解できるように補ったりして、自分の思いを調整しながら、相手の思いを分かろうとする過程を丁寧に援助していくことが必要である。
- ・仲間の友達（K児L児）の姿は、M児の発信のきっかけになっている。教師は、幼児同士が互いの言動から自分と相手と思いが違ふことを感じて学び合う姿を見守り、友達を通して相手の思いに気付いていく姿を認めていく。また、思いを言葉や動作で表現したことが相手に伝わる、受け入れられる経験を積み重ねられるよう援助し、表現する喜びを感じていくことができるようにする。
- ・L児のように、相手の思いを受け入れているが言葉で発信しない幼児には、相手の思いや状況を受け入れている姿を認め、教師が思いを言葉にしたり言葉で伝える場面を橋渡ししたりして、伝える喜びが経験できるようにしていく。

## 事例5

## 5歳児 9月 友達と一緒に遊びたい気持ちから、周囲の

### 状況をとらえ、友達にかかわった事例

教師はN児を、友達の動きに関心をもち、周囲の状況をとらえているが、他の幼児とかかわることへの緊張感が強く、自分の思いを言葉でうまく表現できないため、友達に思いが伝わりにくい傾向があるととらえた。教師は、幼児が自分の思いを言葉で伝えたり、相手の言動から思いを受け止めたりして、友達と思いが伝わり合う楽しさを味わってほしいと考え、思いの伝え方を知らせてきた。N児が、日常的に友達に動きや言葉で繰り返し思いを伝えようとするようになってきている姿を大切にしている。

N児は、気の合う友達がO児のやっていたビー玉ゲームに入ったことで、その遊びに関心をもち、ゲームの近くにいき、様子を見ている。

### SCENE 1 「僕も入れて」

N児は、ビー玉ゲームで遊んでいたO児のそばを رفتり来たりし、話しかけるタイミングを見計らいながら、小さな声で「僕も入れて」と言う。すぐに、O児はN児の顔をチラッと見て「ゲームをするのに、お金がいるんだよ」と言う。N児は何も言わずに、製作コーナーへ行き、紙を丸く切ってお金を作り、O児たちのゲームの所へ行く。しかし、O児たちの使っているお金が紙ではなく牛乳キャップであることに気付くと、自分が作ったお金をロッカーへしまう。

囲み枠の読み方：

読みとれる要素

教師の意図

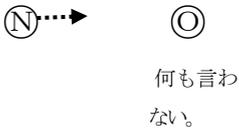
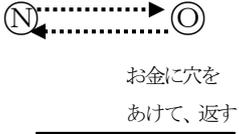
コミュニケーションを支えるもの

コミュニケーション図	N 児	O 児
<p><b>発信</b></p> <p>「僕も入れて」</p> <p>① → ②</p> <p>←</p> <p>「ゲームをするのに、お金がいるんだよ」</p> <p><b>受信して発信</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>好きな友達と同じ遊びをしたいという強い思いから、自分の思いを言葉で表し、O児に伝える。</li> <li>O児たちの動きを見て、使っているお金が自分の作ったものと違うことに気付く。</li> </ul> <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>思いがある。</li> <li>伝えたい相手がいる。</li> <li>言葉で表現する。</li> <li>話を聞き、理解している。</li> <li>遊びの状況をとらえている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>N児の遊びこ入りたいという思いを聞いて、受け止める。</li> <li>遊びに入るには、必要なものがあるという、自分の思いを言葉で表し、N児に伝える。</li> </ul> <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>友達の話を聞く。</li> <li>受け止める。</li> <li>言葉で表現する。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>友達のしていることに関心をもっていること。</li> <li>気の合う友達と一緒にいたい気持ち。</li> <li>「入れて」という言葉を聞いてくれる友達の存在。</li> <li>友達の動きを見て、状況をとらえる力があること。</li> </ul>	

### SCENE 2

### 「仲間に入りたいな…」

O児がお金の入った箱をテーブルの上に置いて座っていると、N児は、製作コーナーで牛乳キャップを取り、O児の所へ行く。そして、黙って箱の横にお金を置く。O児はN児の行動に気付かず、ゲームを見ている。N児は、その後数回、製作コーナーにキャップを取りに行き、繰り返しO児に黙って渡す。O児はキャップを受け取るが穴を開けて返したり、黙っていたりしている。

コミュニケーション図	N 児	O 児
<p>発信 黙ってお金を渡す。</p>  <p>何も言わない。</p> <p>発信 黙ってお金を渡す。</p>  <p>お金に穴をあけて、返す</p> <p>受信して発信</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・O児に仲間に入れて欲しいという思いを伝えたいが、言葉ではなくお金を渡すという動作で表すため、O児に思いが伝わらない。①</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遊びに入れてほしいという思いがある。①</li> <li>・伝えたい相手がいる。②</li> <li>・動作で表現する。③</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・N児はO児に「お金がいる」と言われたので、仲間に入りたいという自分の思いを、もの(お金)を媒介として繰り返し表していること。③</li> </ul> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・N児の発信が言葉でないため、気付かなかつたり、N児の思いが伝わらず、お金の穴を開けて返していたりする。④</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手との関係性から、思いを受け止めにくい。④</li> <li>・友達の伝えたい思いを、理解することが難しい。</li> </ul> </div>

## 考 察

### 各幼児のコミュニケーションの傾向



N児

- ・自分の思いがあり、伝えたい対象がいて、何度も働きかけているが、言葉での発信が少ない。
- ・自分の思いを、どのように友達に伝えたらよいかわからず、言葉ではなく、ものを媒介として友達とかわろうとしている。
- ・友達の動きに関心をもち、周囲の状況をとらえ、遊びに入りたい思いを自分なりの動きで表現している。



O児

- ・友達の言葉を聞いて受け止めたり、自分の思いを言葉で表現したりしている。
- ・会話の相手が、日頃かかわることの少ないN児であるため、動作だけの発信を受け止めにくい。

### 教師の援助

- ・N児は、気の合う友達がO児の遊びに入り、自分も一緒に遊びたいという強い思いから、O児に自分の思いをわかってもらおうと言葉や動作で伝えているが、今回は、O児にその思いが伝わらなかった。教師は、このやりとりの場面に居合わせず、直接援助をしていないが、N児が、自分の思いを伝えようとして、自分なりにO児にかかわっている場面を見逃さないようにし、O児に伝わるような言葉での伝え方をN児に知らせたり、N児の思いをO児に気付かせたりする援助が必要であった。①今後もN児が安心感をもって友達にかかわれるように、教師は、N児が友達と遊びたいという思いをもち、自分なりに友達にかかわっている姿を認め、思いの伝え方や伝えるタイミングなどを具体的に知らせたり、相手の思いを伝えたりして、言葉で思いや考えを伝え合う楽しさを感じていくことができるように支えていくことが大切である。②
- ・N児のものを媒介とした発信に対して、O児の反応が小さいのは、ものだけの発信では、日頃かかわりの少ないN児の思いを汲み取ることができず、どうしたらいいかわからなかったためと思われる。教師は、O児の思いを受け止め、N児の思いが伝わるよう橋渡しをしていくことが必要である。③
- ・5歳児は、ものを媒介としながらも、もののもつ意味やイメージが互いに共有化されないと、かかわりが十分にもてないところがある。教師は、ものでの発信とともに友達に伝わるような言葉を引き出したり、友達の発信に気付くように、橋渡しをしたりするなどして、友達関係を育て、自分で思いを伝え、相手が受け入れてくれることで、思いを伝え合う喜びを味わわせていくことが必要である。④

## 5 活動例

コミュニケーション能力の育成のために教師は、幼児が友達と直接かかわっている場面や教師が意図的に設定した場面など様々な場面で指導することが大切である。教師が絵本などの視聴覚教材の読み聞かせをして、そのストーリーや登場人物を通して友達同士で思いや考えを伝え合う喜びを感じてほしいと願っている。そこで、以下のような活動例を挙げる。

### 【指導案】4歳児 10月

幼児の実態

- ・一緒に遊びたい友達がいる。その友達と遊べるときと、断られてつまらない思いをしているときがある。
- ・好きな友達が転居して、一緒に遊ぶ人が見付からないと悲しそうな顔をしている幼児がいる。

ねらい

- ・絵本を通して、友達の思いに気付かせたり、自分の思いを言葉で伝えたりすることを知らせる。

教師の願い

- ・新しい友達が誰にでもできるという期待感をもってほしい。
- ・ストーリーを楽しみながら、主人公の「友達に思いが伝わった」「友達ができて嬉しい」という気持ちに共感してほしい。

絵本『とんことり』作：筒井頼子 絵：林明子

内容 (指導事項)	教師の援助・留意点	評価項目 (◆幼児の言動)
「とんことり」の絵本に興味をもつ。	・絵本の表紙を見せながら、転居をした友達の話をすることで、絵本に興味をもたせる。	教師の話聞き、絵本に興味をもったか。
ストーリーが分かり、次の展開を楽しみにする。	・幼児のつぶやく言葉を受け止め、幼児の気持ちに共感する。	ストーリーを分かって楽しむことができたか。
友達かもしれないという、主人公の気持ちになって話しを聞く。	・相手に自分の思いを伝えている場面では相手に思いが伝わったということが感じ取れるように、声のトーンに気を付けて丁寧に読む。	◆気付いたことを言う。 ◆絵を目で追っている。
「まって。」「いっしょにあそば。」などの思いが相手に伝わったことを感じる。	・登場人物が互いの思いが伝わって友達になれたことを喜ぶ様子を幼児と共感する。	主人公の気持ちが感じられたか。 ◆自分が感じたことを言う。 ◆表情に表しながら聞く。
		自分の思いが相手に伝わったことが分かり、嬉しいと感じているか。 ◆表情や言葉に表す。 ◆そばにいる友達と絵本のことを話す。

教師の指導の評価

- 幼児が登場人物の思いに気付けるように読み聞かせをしていたか。

### 【幼児の姿】

最初の『とんことり』と音がした場面では「何？」と言って反応し、次の『とんことり』と音がした場面では「誰かがポストに入れているんだよ」「お友達かな」「違うよ」などとそれぞれがつぶやく。教師は「そうね、誰かしら？」と幼児の言葉を受け止め、次を読んでいく。次の『とんことり』と音がした場面では、「あの子かな？」とつぶやきながら次の絵を見ていく。友達のいる場面を見て「あっ！いた！」「あの子だったんだ」と言って反応する。

### 【考察】

- ・最初は『とんことり』と音がした場面では音の響きに反応し、繰り返される『とんことり』に興味をもち絵本を見ていたが、ストーリーに引き込まれていき、最後の友達が出る場面では、主人公の気持ちになってほっとしたり、喜んだりしている。
- ・教師が幼児の反応するつぶやきや言葉を受け止め、「友達だったらいいね」「どんな友達だろう」、という幼児の気持ちに共感することでさらに自分の思いを出していく。
- ・一緒に絵本を見ていた友達が反応することで、自分の感じたことと違うことに気付いたり、ストーリーを分かろうとしたりしている。

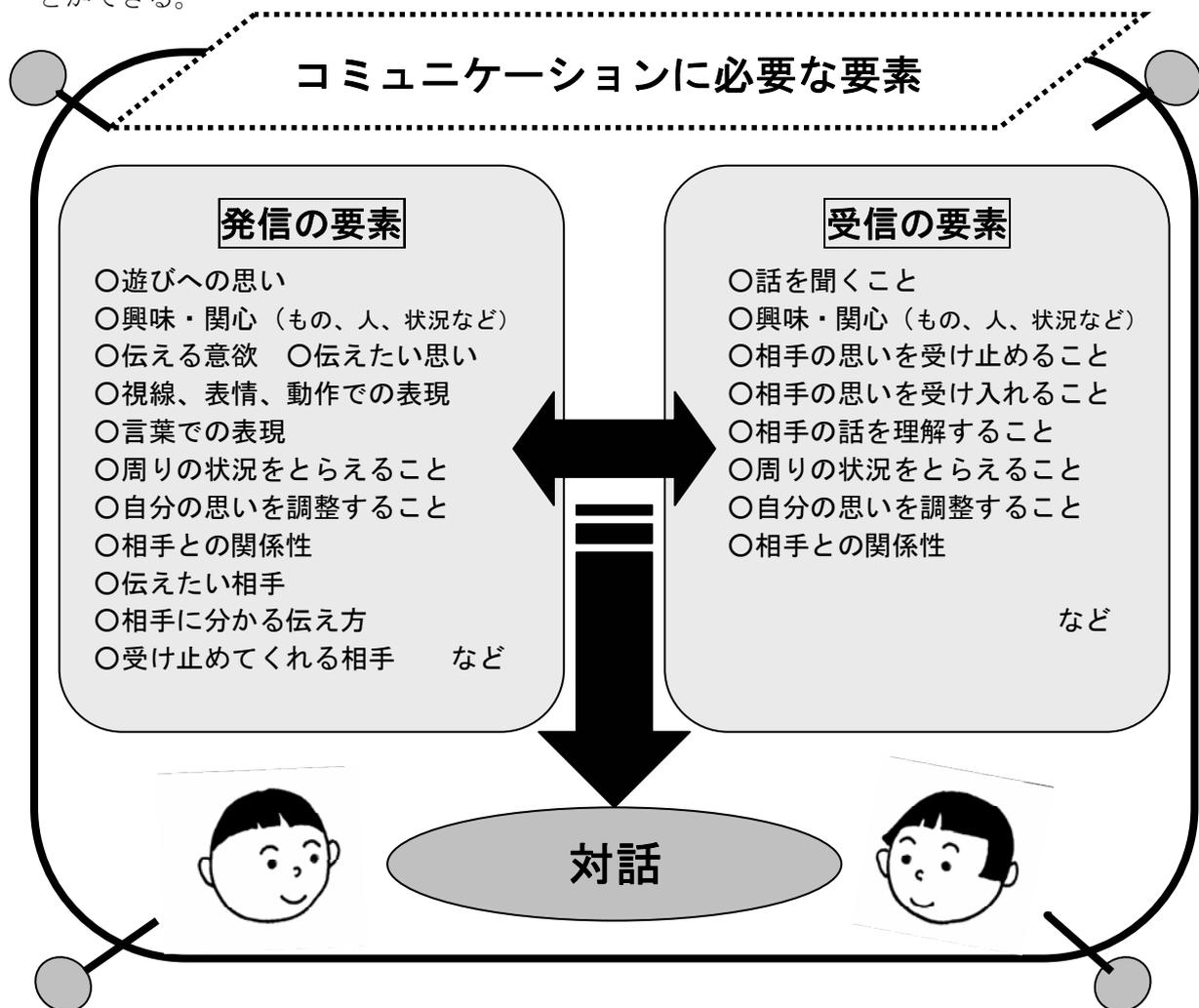
### Ⅲ まとめと今後の課題

事例を分析・考察した結果、明らかになったことを以下にまとめた。

#### 1 幼児のコミュニケーションに必要な要素

コミュニケーションが成り立つためには、友達や教師など周囲の人とかかわる場面で、必要な要素があることが分かった。要素には、自分の思いを様々な方法で伝えようとする**発信の要素**と、相手が発信した思いを聞いて、相手の気持ちや考えが分かる**受信の要素**がある。また、この**発信の要素**と**受信の要素**が、互いに行き交い、作用し合うことから、互いの思いを分かり合う**対話**が生まれてくると考えた。

幼児が友達や教師など周囲の人とかかわる場面で、以下の要素がその幼児や状況においてあるのか、ないのかをとらえることで、その幼児のコミュニケーションに必要な要素を考えることができる。

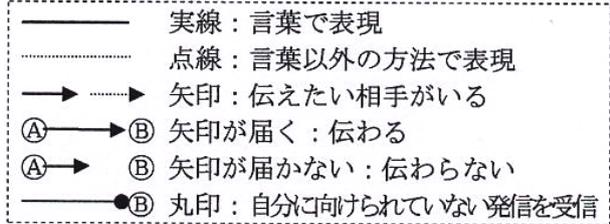


#### 2 事例から分析した幼児のコミュニケーションのパターンと援助

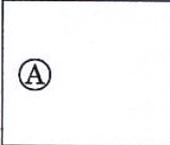
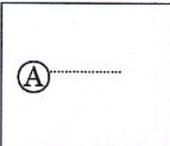
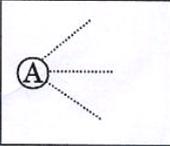
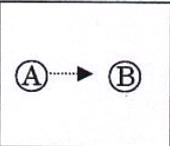
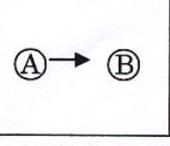
事例（22事例）を検討し、分析する中で、コミュニケーションの様々な場面を“パターン”として図にまとめた。そして、それぞれのパターンごとに、コミュニケーションに必要な要素の中から、どのような要素が読み取れるかを考え、教師の援助についてまとめた。

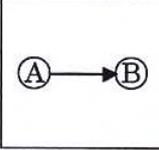
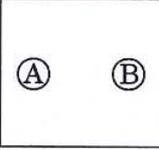
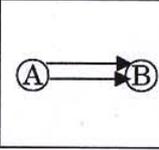
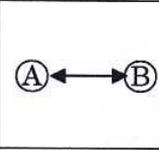
なお、ここでは、発信者を④、受信者を⑤、教師を⑥と表し、発信パターン・受信パターンに分けて整理した。コミュニケーションの場面においては、基本的に発信者④と受信者⑤の両方が存在することは言うまでもなく、発信パターン・受信パターンにおいても数限りない組み合わせが考えられ、教師はその両者について必要に応じて援助することが大切である。

また、教師の援助については一人一人の幼児の発達の特性に合わせて行うものにとらえ、年齢別にまとめることはしないが、おおよその発達の特性を踏まえた書き方をすることにした。なお、矢印の種類については、右記のように表す。

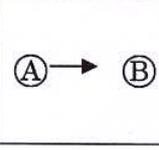
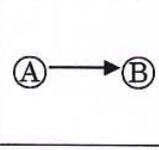


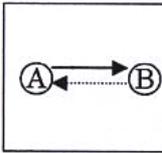
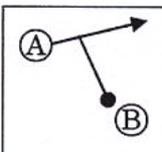
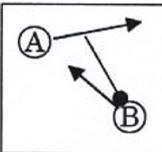
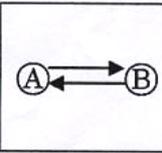
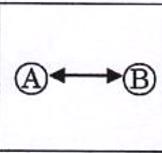
(1) 発信パターン 発信者①への援助について

コミュニケーションパターン	①児から読み取れる要素	教師の援助
 <p>自分の思いを表現しない。(黙っている、傍観している、動かないなど)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の思いがある</li> <li>伝えたい思いがない</li> <li>伝える意欲がない</li> <li>表現の仕方が分からない</li> <li>遊びへの思いがない</li> <li>人への関心がない</li> <li>伝えたい相手がない</li> <li>伝え方が分からない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の思いを分かってくれているという安心感がもてるようにする。</li> <li>幼児の思いを推察し、気持ちに寄り添ったり思いを引き出したりする。</li> <li>興味もてるようなものや遊びを提示し、自分の思いを出したり人とかかわったりするきっかけをつくる。</li> </ul>
 <p>自分の思いを動作で表す。(笑う、泣く、怒る、つぶやく、ものを渡す、指差すなど)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の思いがある</li> <li>視線、表情、動作で表現することができる</li> <li>伝えたい思いがない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>幼児の思いに気づき、十分に受け止めたり共感したりすることで、自分の表現したことが他の人に伝わる嬉しさや安心感が感じられるようにする。</li> </ul>
 <p>思いを伝えたい対象は特定していないが、誰かに気付いてほしいという思いをもつて動作で表現する。(視線を送る、笑う、泣く、怒るなど)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>伝えたい思いがある</li> <li>特定の伝えたい相手がない</li> <li>表現の仕方が分からない</li> <li>相手に分かる伝え方が分からない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人一人の動きや表情を読み取り、伝えたい思いがあることや表現しようとしている姿を十分に受け止める。</li> <li>自分の思いが伝わる嬉しさを感じられるように「～だったんだね」と言葉を返しながら思いを受け止めたり共感したりする。</li> <li>具体的な表現方法や言葉を知らせ、伝え方にも気付けるようにする。</li> </ul>
 <p>伝えたい思いはあるが、動作だけで伝えており、相手に伝わらない。(視線を送る、引っ張る、叩く、怒るなど)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>伝えたい思いがある</li> <li>伝えたい相手がいる</li> <li>動作で自分の思いを表現することができる</li> <li>言葉で自分の思いを表現することができない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>動作では自分の伝えたい思いが伝わりにくいので、相手に伝わるような発信の具体的な方法(言葉や言い方など)を知らせ、ときには教師と一緒に伝える。</li> <li>言葉で伝える援助をし、相手に思いが伝わり、相手にも自分の気持ちが分かってもらえると嬉しいという経験ができるようにする。</li> </ul>
 <p>特定の相手に思いを表現しているが、相手に伝わらない。(小さな声、一方的で強すぎる表現、伝わらないとあきらめてしまうなど)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>伝えたい思いがある</li> <li>伝えたい相手がいる</li> <li>思いが弱く、または強い</li> <li>言葉での表現が分かりにくい(語彙が少ない)</li> <li>相手に分かる伝え方が分からない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>相手に自分の思いを伝えようとしている姿をまずは十分に認め、伝えようとしている内容を言葉にして返したり代弁したりする。</li> <li>相手に伝わるような言葉や表現の仕方を具体的に知らせ、安心して思いを出せるようにする。</li> <li>相手の思いや状況に気付けるように言葉を補い、相手に受け止めてもらえるような発信の具体的な方法を知らせる。</li> </ul>

 <p>伝えたい思 いを言葉で 表現し、相手 (教師も含め る)に伝わる。</p>	<p>伝えたい思 いがある ・言葉で表現することがで きる ・伝えたい相手がいる (3, 4歳の場合は、相手が教 師や安心感をもてる友達 であることが多い)</p>	<p>自分の思いを相手に伝えている姿や伝わ ったことを認め、思いが伝わった嬉しさに共 感する。 ・自分の思いを相手に伝えた上で、自分の思 いが受け入れられなかった場合も、思いを 伝えた行為そのものを十分に認め、伝えて よかったと思えるように言葉を補う。</p>
 <p>伝えたい思 いはあるが、 相手との関係 性(力関係が ある、関係が薄 いなど)により思 いを伝えられない。</p>	<p>伝えたい思 いがある ・相手との関係性から表現 することができない (怖 い、自信がない、恥ずか しいなど)</p>	<p>友達関係の中で一人一人が自分の思いを出 そうとすることが大切であることに気付か せ、伝えたいという意欲を支え、励ます。 ・④児と⑤児の関係性を見極め、どのような 関係性の中でも、自分の思いが出せるよう に励ます。 ・ときには、教師が思いを推察し、具体的な 言葉を知らせたり代弁したりする。</p>
 <p>伝えたい思 いを相手が 受け入れてく れるまで、 様々な方法で発信を続ける。</p>	<p>強い思 いがある ・伝えたい相手がいる ・相手が聞いてくれるよう な伝え方が分からない ・自分の思いを調整するこ とができない</p>	<p>発信している内容が相手に伝わるように具 体的な方法を伝える。 ・相手の状況や思いに気付けるようにしなが ら、発信の方法を変化させたり、気持ちに折 り合いをつけたりしていくことを知らせる。 ・思いが受け入れられなかった場合も、相手 の思いに気付く大切さを知らせ、気持ちを 受け止める。</p>
 <p>伝えたい思 いを言葉で 表現し、相手 が受け止め、 思いを返してくれる。</p>	<p>言葉で表現することがで きる ・伝えたい相手がいる ・受け止めてくれる相手 がいる</p>	<p>自分の思いを受け止めてもらえた嬉しい気 持ちに共感し、そのことが新たな発信への 意欲につながるようにする。 ・やりとりを重ねることで互いの嬉しさが膨 らみ、気持ちがつながる喜びが感じられる ようにする。</p>

(2) **受信パターン** 受信者⑤への援助について

コミュニケーションパターン	⑤児から読み取る要素	教師の援助
 <p>自分に向け られた他から の発信に対 して反応しな い。</p>	<p>人への関心がない ・発信された内容に興味 がない ・相手の話を理解してい ない ・話を聞いていない ・周りの状況への関心 がない</p>	<p>どんな内容が自分に発信されたのか分かる ように言葉を添えることで、相手に関心 がもてるようにする。 ・相手の思いや状況を知らせる橋渡しをし、 相手の言葉に耳を傾けられるようにする。 ・相手の思いを受け止めることで、相手 が嬉しい気持ちになることを知らせる。</p>
 <p>相手の発信 は届いてい るが、相手 との関係性 の中で受信 しない。</p>	<p>相手の思 いを受け止 めない ・相手との関係性 がない、ま たは薄い</p>	<p>④児と⑤児の関係性を見極めながら、相手 の思いに気が付くようにし、発信された ことに対して受信していく大切さを知らせ る。 ・受け止められた時の相手の嬉しい気 持ちを伝える。</p>

 <p>自分に向けられた発信に対して視線、表情、動作などで反応する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人への関心がある</li> <li>・発信された内容に興味がある</li> <li>・相手の話を理解していない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・互いの思いを仲介したり言葉を補ったりして、やりとりの楽しさや気持ちが伝わり合う嬉しさが味わえるようにする。</li> <li>・相手の思いに言葉で返すと、相手も嬉しいということを知らせ、伝える意欲を支える。</li> </ul>
 <p>自分に向けられていない他からの発信を、キャッチしている。 (教師の発信には関心が強い)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人への関心がある</li> <li>・他の人が発信した内容に興味がある</li> <li>・他の人が発信した話を理解している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の言動に関心が強いので、教師と他の幼児とのやりとりを見たり聞いたりしている。周りの幼児にも間接的に教師の援助が伝わっているということを意識しながら、援助する。</li> <li>・他の人への発信をキャッチしたことをきっかけに、自分が感じたことや考えたことを表せるようにし、相手とのかかわりがもてるようにする。</li> </ul>
 <p>自分に向けられていない発信を、キャッチし、反応している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人への関心がある</li> <li>・他の人が発信した内容に興味がある</li> <li>・他の人が発信した話を理解している</li> <li>・周りの状況をとらえることができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・周りの状況をよく見たり、人の話を聞いたりしていることを受け止め、人とかわらうとしている姿を認める。</li> <li>・受信するだけでなく、直接のやりとりが生まれるように橋渡しをする。</li> </ul>
 <p>相手の言葉を受け、自分の思いを伝える。(受容する、拒否するなど)</p>	<p>(受容の場合)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手の話を聞いている</li> <li>・相手の話を理解している</li> <li>・相手の思いを受け入れることができる</li> </ul> <p>(拒否の場合)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手の話を聞いている</li> <li>・相手の話を理解している</li> <li>・相手の思いを受け入れられない</li> <li>・相手の状況や思いが分からない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・互いに受信と発信を重ねることでやりとりの楽しさが味わえるようにする。</li> <li>・気持ちを伝え合う、分かち合うなど気持ちがつながる喜びが感じられるようにし、コミュニケーションが更に積み重なるようにする。</li> <li>・相手の発言に対して思いを返したことを認める。</li> <li>・相手の思いや状況を知らせる橋渡しをし、相手の思いに気付けるようにする。</li> <li>・相手の思いが自分と違うと感じたときに、自分の思いを受け止めてもらえるような言い方をしたり、思いを調整したりできるようにする。</li> </ul>
 <p>相手の思いが分かり自分の思いと折り合いをつけ調整する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手の話を聞いている</li> <li>・相手の話を理解している</li> <li>・自分の思いを調整することができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手と思いが違っていることに気付いたことを受け止め、自分の思いを調整していこうとする姿勢を認める。</li> <li>・相手の思いを受け入れ合うことで遊びがなおもしろくなっていくことに共感する。</li> <li>・互いの思いを感じ合いながら、やりとりをする楽しさを十分味わわせる。</li> </ul>

### 3 事例から見たコミュニケーションを支えるものとコミュニケーションを支える教師の援助

私たちは、事例を通して幼児が園生活の中で自分の思いや考えをどのように発信しているのか、また、友達の発信した言動をどのように受信し、更に自分の思いや考えを発信しているのかを探った。その幼児の姿から(1) **コミュニケーションを支えるもの**を項目ごとに明らかにし、(2) **コミュニケーションを支える教師の援助**を次のようにまとめた。

#### (1) **コミュニケーションを支えるもの**

##### ◆遊びやもの

- ・ 幼児は遊びやものに出会い、興味・関心をもってその遊びやものにかかわる中で、楽しさやおもしろさ、驚きや発見などの様々な感情体験をする。その時に幼児は感じたことや思いを表現したい、伝えたいという欲求をもち、周りの人に伝えようとし、コミュニケーションのきっかけとなる。
- ・ 幼児同士が同じものを使ったり、同じ場にいる中で、互いの思いを表現したりしたときには、同じ状況を共有していることがきっかけとなりコミュニケーションが生まれる。(また、同じ状況を共有していることで相手の思いが分かり、共感することが多い。)
- ・ 幼児が友達と共通の目的やイメージをもち、実現していこうとする欲求をもっているときには、互いに自分の思いや考えを相手に伝え、やりとりが増える。

##### ◆教師

- ・ 教師が幼児の言動を受け止め、その思いや考えに共感していくことで、幼児は安心して自分の思いや考えを表すようになり、これがコミュニケーションの基盤となる。
- ・ 幼児は教師と友達とのやりとりに関心をもつことで、友達の思いに気づき、友達とのコミュニケーションのきっかけとなる。

##### ◆友達

- ・ 友達が楽しそうに遊んでいることに興味・関心をもち、同じようにやってみようとすることで、友達とのコミュニケーションが生まれるきっかけとなる。
- ・ 幼児は一緒に遊びたい友達ができると、自分の思いや考えを伝えたいために、相手に伝える方法を考えたり、友達の考えを聞こうとしたりするようになる。さらに、自分の発信した思いや考えを友達に受け入れてもらえると、友達と気持ちのつながりを感じることができる。そして、互いに思いが通じ合い対話が生まれる。
- ・ 友達と思いや考えが異なったときに、幼児は一緒に遊びたいという思いから自分の思いを調整しながら思いや考えを伝えようとする。
- ・ 一緒にいたい友達、思いを伝えたい相手と互いに発信と受信をし合えるような関係であることで、一緒に遊ぶ楽しさ、対話する楽しさを味わえる。

#### (2) **コミュニケーションを支える教師の援助**

##### ◆幼児の興味・関心を支える援助

- ・ 幼児が遊びを楽しむことで自分の思いを表せるように、教師は幼児が思わずやってみたくなるような楽しい遊びや使ってみたくなるような遊具、素材などの環境の構成をしたり教材の選択をしたりしていく。
- ・ 幼児が友達と遊びに取り組む中で自分の思いや考えが十分に出せるように、教師は遊びの

目的をもたせたりイメージを膨らませたりしながら、幼児がやりたい遊びを実現していきけるように援助をしていく。

#### ◆教師との信頼関係

- ・教師は幼児が自分の思いや考えを安心して出せるように何よりも教師との信頼関係を築くことを大切にし、幼児の思いを受け止める。幼児は受け止められた嬉しさから更に、思いを出すようになるため、幼児の言動に応じてその思いや考えを十分に受け止めたり、共感したりすることが大切である。
- ・教師の言動に関心が強い幼児には、教師と友達のやりとりを聞いて友達の思いが分かり、幼児同士がコミュニケーションをもつきっかけともなる。そこで、教師は幼児の思いを受け止める姿を周りの幼児にも見せながら、友達の思いに気付かせていくことが大切である。

#### ◆相手への伝え方を具体的に知らせる援助（発信）

- ・幼児は自分の思いを言葉より動きや表情で表すことが多く、相手に伝わるような言葉での表現が乏しい。教師は、幼児の様々な表現から思いを推察して受け止め、その思いを具体的な言葉に表したり、相手に伝わるよう代弁したりするとともに、必要な言葉や具体的な手だてを知らせ、かかわりの手助けをしていくことが必要である。
- ・幼児は伝えたい相手が今どのような状況かを見極めずに、自分の思いを自分の思いのままに話をすることがある。相手の状況や思いに気付けるようにしながら、発信の方法を変化させたり気持ちに折り合いをつけたりすることを知らせる。
- ・自分の思いを相手に伝えている姿や伝わったことを認め、思いが伝わった嬉しさを共感することで更に、新たな発信への意欲となるようにする。

#### ◆友達の思いに気付かせる援助（受信）

- ・幼児はその遊びに興味・関心がなかったり、その相手に関心がなかったりすると、相手の話を聞こうとしないことがある。そこで、友達から発信されたことに気付かせ、相手の言葉に耳を傾けられるようにする。また、相手の思いを受け止めることで、相手が嬉しい気持ちになることを知らせていく。
- ・相手との関係性の中で発信の仕方や受信の仕方に違いが見られることがある。友達と対等な関係でなくても、それぞれの幼児が友達とのかかわりの中で自分の思いを出せるように教師は励ましながら支えていく。また、相手の言動を受信できるように周りの状況や相手の思いに気付かせたり、自分の思いを受け止められたときの嬉しい気持ちを伝えたりする。
- ・友達と互いに思いが通じ合い対話が生まれるように、受信と発信を重ねることでやりとりの楽しさが味わえるようにする。

#### 4 今後の課題

研究を通して、幼児のコミュニケーションには幼児自身の伝えたい思いがあることが大切であり、それを支える教師の役割は大きいことが分かった。また、アンケート調査（自由記述の抜粋）の教師の意見にもあったように、幼児のコミュニケーション能力の背景には保護者とのかかわりが大きく影響していると思われる。今後はその点についても研究を深めコミュニケーション能力を育てることの重要性を保護者に伝えていくことが教師の大きな役割であると考えている。

## 平成17年度 教育研究員名簿

地区名	幼稚園名	氏名
千代田 中央 台東 墨田 江東 品川 世田谷 中野 北野 日野	富士見 日本橋 清島 柳島 ちどり 平塚 桜丘 みずのとう ふくろ 第五	千葉 江美 大森 志穂 大南 理枝 宮田 宏子 ◎工藤 文子 ○山崎 紀子 中村 秀子 若槻 容子 矢野 志保子 比留間 千草

◎世話人 ○副世話人

担当 東京都教職員研修センター 指導主事 鈴木 奈緒美

### 平成17年度教育研究員研究報告書

〔 東京都教育委員会印刷物登録 〕

〔 平成17年度 第12号 〕

平成18年1月16日

編集・発行 東京都教職員研修センター

所在地 東京都目黒区目黒一丁目1番14号

電話番号 03-5434-1974

印刷 株式会社 今関印刷